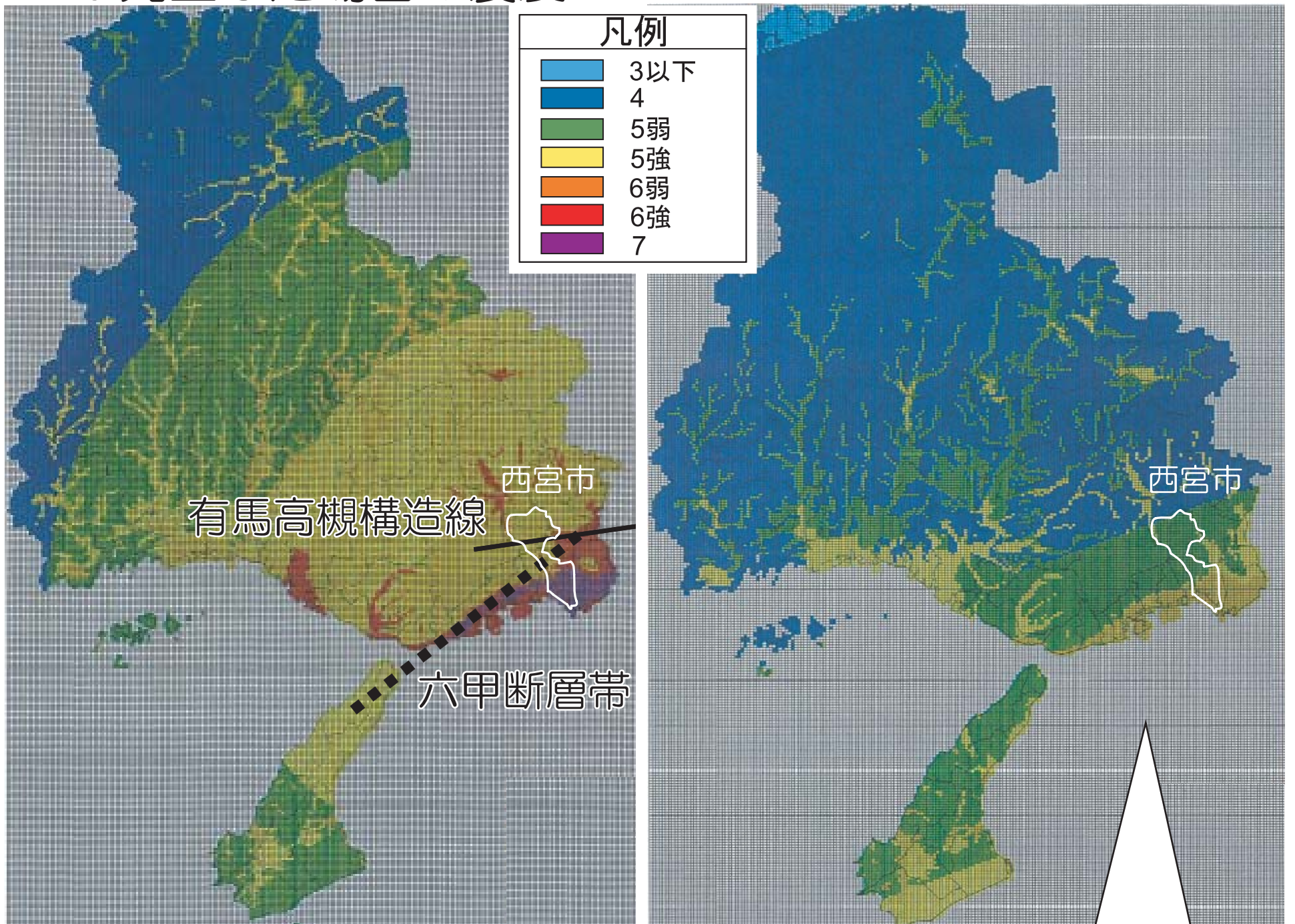


震度想定

本図は、①有馬高槻構造線～六甲断層帯と②南海道のそれぞれで地震が発生した場合の震度想定を記載したものです。

■ 有馬高槻構造線～六甲断層帯で地震（M7.7）が発生した場合の震度 ■

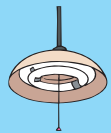
■ 南海地震（M8.4）が発生した場合の震度 ■



震度とM(マグニチュード)の違い

震度はそれぞれの地域における揺れの大きさを表す指標で、マグニチュードは地震そのものの大きさを表す指標です。

両者の関係を蛍光灯に例えると簡単です。まず蛍光灯そのものの明るさがマグニチュードであるとし、次に、蛍光灯に照らされている場所が遠いほど暗くなるわけですが、この場所によって異なる明暗の度合いが震度に相当します。



※この震度想定は兵庫県の作成した「兵庫県地震被害想定調査報告書」を基にしました。